

## 这种说法那种说法②

### 《表达疼痛的词语》

当你受伤或生病、感觉身体疼痛的时候，您是否想详尽地向别人表述出具体是怎么个疼法，而不仅仅是简单地说一个“疼”字而已呢？去医院看医生时，如果把病情表述得越是详尽，那么得出的诊断也会越正确。此次，我们就为您介绍日语中多种表达疼痛的几个具有代表性的词语。它们被称为“拟态词”，由于汉语中的拟态词不是很多，所以或许您会觉得有点儿难记。但是，各个词语所指的部位和所表达的疼痛类型比较固定，因此，要是能够一边联想什么部位有着什么样的疼法、用的是什么说法，一边去记忆的话，既比较好记一些，又便于区别使用。

・ひりひり（火辣辣地疼）… 指擦伤或给

## こんな言い方・あんな言い方②

### 《痛みを表すことば》

怪我や病気で身体に痛みを覚えたときには、その痛みをただ「痛い」と言うのではなく、どのように痛むのかをちゃんと伝えたいとおもったことはありませんか。病院に行くにしても、ちゃんと伝えられた方がお医者さんもより正しく診断できるでしょう。そこで、今回は日本語にたくさんある痛みを表す言葉の代表的なものをご紹介します。これらは「擬態語」と言われる語で、中国語には擬態語があまり多くないため、覚えにくいと思うかもしれません。しかし、各々の語は使われる身体の部位と痛みの種類が比較的固定されていますので、どの部位のどんな痛みにもどの言葉を使うかを連想しながら覚えるようにすると覚えやすい

傷口上薬時薬液・药膏刺杀伤口的那种疼感，或用于表述皮肤被暴晒或被刺激后的疼痛。也用于表述吃进很辣的东西，舌头或喉咙长时间受到刺激时的感受。

- ぴりぴり（针扎一般的疼）…指触电般的痛感。用于表述比“ひりひり”来得更强烈，连续受到的刺激。当舌头感到剧辣，或皮肤受到一瞬（一次）触电般的刺激时，用“ぴりっ（と）（刺疼）”来表述。它也是辣味食品的商品名称“ぴり辛”这一词的词源。
- きりきり（绞痛）…指用锥子推扎一般持续而尖利的痛感，主要用于表述“胃部感到揉绞一般的疼痛”时。（请注意，“きりっ（と）”指的不是疼痛，而是用来形容整齐、不松弛的状态。）
- がんがん（剧烈的疼痛）…指头部好像被强击了一般，或是某种很大的声音在脑袋里不断震荡、回响般的痛感，主要用于表述强烈的头疼。
- ずきずき（一跳一跳地疼）…指像心跳一样、有着一定间隔、持续很久的那种强烈的痛感。常常用于表述头疼或伤痛，当疼痛变得更加剧烈时，则说成“ずきんずきん”。
- しくしく…（丝丝拉拉地疼）…指不是很剧烈、但是从人体深处不断生出的、一种隐隐的刺痛。常常用于表述腹痛或虫牙初期带来的那种痛感。
- むずむず（痒痒）…指小虫子在皮肤上来回爬行般的、给人带来的那种长时间的刺挠感。也用于表述吸进胡椒时，鼻腔所受到的刺激。

し、使い分けもしやすいと思います。

- ひりひり…擦り傷の痛みや傷口に薬を塗ってしみた時の痛みや、日焼けの痛みなど、肌が刺激を受けた時に使う。辛い物などで舌や喉に刺激を続けて感じている時にも使われる。
- ぴりぴり…電氣的な刺激など、「ひりひり」より強い刺激を続けて受けた時に使う。舌に辛みを感じたり、肌に電気のような刺激を一瞬または一回だけ受けた時は「ぴりっ（と）」が使われる。辛い食品の商品名の「ぴり辛」はこれに由来する。
- きりきり…錐で揉み込まれるような鋭い連続的な痛みを表し、もっぱら「胃がきりきり痛む」時によく使われる。（「きりっ（と）」は痛みではなく、ひきしまった様子を表すので注意。）
- がんがん…頭を強く連打されているような感じや、頭の中で大きな音が響き続けているような感じを表し、主に頭の強い痛みを表す。
- ずきずき…脈が打つのに合わせて、一定の間隔で強い痛みを感じ続けている様を表す。頭や怪我の痛さを表すのによく使われ、痛みが更に強い場合は「ずきんずきん」と言う
- しくしく…強い痛みではないが、鈍く刺すような痛みが身体の奥の方で起きていた様を表し、腹の痛みや虫歯の初中期の痛みによく使う。
- むずむず…小さい虫が皮膚を這い回っているようなかゆみ等の刺激を連続的

- ・ちくちく（小刺儿扎着一样地疼）… 指用针连续而轻微地扎肌肤一般的痛感。也形容纯毛毛衣直接与肌肤接触时的那种扎刺感。用于表述眼睛深处或腹部持续性刺儿扎般的疼痛。当被蜜蜂等昆虫蜇到一次时，则说成“ちくっ”，或者“ちくり”。
- ・ちかちか（眼睛发花、一闪一闪地）… 指眼睛因受到强光刺激而无法正常看东西时的状态。人们常说“打电脑打得太久，眼睛都发花了。”它也用来形容“星星一闪一闪亮晶晶”等非疼痛，而是如眨巴眼睛这样的情形。（安）

に感じているときに使う。胡椒<sup>こしょう</sup>を吸い込んだ時に鼻<sup>はな</sup>が受ける刺激にもこの語を使う。

- ・ちくちく…肌<sup>はり</sup>が針<sup>はり</sup>で続けて軽く刺<sup>かる</sup>されるように傷む様を表す。毛糸<sup>けいと</sup>のセーター<sup>せーたー</sup>を肌<sup>しか</sup>に直<sup>き</sup>に着たときに感じる刺激もこれ。目の奥<sup>め</sup>や腹<sup>はら</sup>の、刺すような連続的な痛みに使われる。蜂<sup>はち</sup>などに一回だけ刺された痛みの時は「ちくっ」ないし「ちくり」を使う。
- ・ちかちか…強い光<sup>ひかり</sup>の刺激で目が正常<sup>せいじょう</sup>でなくなった時の様子を表す。「パソコン<sup>ぱそこん</sup>の見過ぎ<sup>みすぎ</sup>で目がちかちかする」などと言う。「星<sup>ほし</sup>がちかちか光<sup>ひか</sup>る」などのように、痛みではなく瞬<sup>またた</sup>く様子を表す時にも使われる。（安）